

End of Result Set



Generate Collection

L8: Entry 36 of 36

File: JPAB

Mar 19, 1992

PUB-NO: JP404087967A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04087967 A
TITLE: FRAGRANCE GIVING METHOD FOR TISSUE PAPER

PUBN-DATE: March 19, 1992

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MISHIMA, HORYU

OTA, HIDEAKI

KONDO, SUMIO

GONO, YOICHIRO

ANDO, YUKARI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TAKASAGO INTERNATL CORP

LOTTE CO LTD

APPL-NO: JP02197516

APPL-DATE: July 25, 1990

US-CL-CURRENT: 221/33

INT-CL (IPC): B65D 83/08; A61L 9/01

ABSTRACT:

PURPOSE: To make fragrant component adsorbed evenly on tissue paper at the time when the tissue paper is used by a method wherein in a sealed container in which tissue paper is removably stored, an unwoven fabric is installed, and a specific fragrance is immersed on the unwoven fabric, and the unwoven fabric is airtightly closed in the container together with tissue paper.

CONSTITUTION: For a tissue paper container 1, on a container main body 2, a cap 3 is detachably and integrally connected, and on the upper surface of the cap 3, a take-out port 4 is bored, and a detachable lid 5 to close this take-out port 4 is continuously provided. On the bottom surface of this tissue paper container 1, an unwoven fabric 6 made of pulp is placed. On the unwoven fabric 6, a fragrance for which rosemary oil an clove oil are mixed with uncalyptus oil, laverndine oil, menthol and peppermint oil as essential compound is dropped from the top opening of the container main body 2 to let it immerse in the unwoven fabric 6.

COPYRIGHT: (C) 1992, JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-87967

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成4年(1992)3月19日

B 65 D 83/08
A 61 L 9/01

A 9036-3E
Q 7108-4C

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全5頁)

⑭ 発明の名称 ティッシュペーパーの賦香方法

⑰ 特 願 平2-197516

⑱ 出 願 平2(1990)7月25日

⑲ 発 明 者 三 島 方 隆 東京都大田区蒲田5丁目36番31号 高砂香料工業株式会社
総合研究所内
⑲ 発 明 者 太 田 英 明 東京都大田区蒲田5丁目36番31号 高砂香料工業株式会社
総合研究所内
⑲ 発 明 者 近 藤 純 夫 埼玉県新座市野火止6丁目21番37号
⑲ 発 明 者 郷 野 洋 一 郎 埼玉県浦和市三室539-10
⑲ 発 明 者 安 藤 ゆ か り 東京都世田谷区南烏山5丁目17番10号
⑲ 出 願 人 高砂香料工業株式会社 東京都港区高輪3丁目19番22号
⑲ 出 願 人 株 式 会 社 ロ ッ テ 東京都新宿区西新宿3丁目20番1号
⑲ 代 理 人 弁 理 士 西 良 久

明 細 書

1. 発明の名称

ティッシュペーパーの賦香方法

2. 特許請求の範囲

(1). ティッシュペーパーを取出し可能に収納する密閉容器内に不織布を内蔵し、該不織布にユーカリプタスオイル、ラバンジンオイル、メントールおよびペパーミントオイルを主成分とする香料を含浸させてティッシュペーパーと共に密閉し、上記不織布から揮散した香氣成分を上記ティッシュペーパーに吸着させてなることを特徴とするティッシュペーパーの賦香方法。

(2). ティッシュペーパーを取出し可能に収納する密閉容器内の底面に不織布を載置し、上から香料を滴加してからティッシュペーパーを収納し、上記容器を密閉してティッシュペーパーに香氣成分を吸着させることを特徴とする請求項1に記載のティッシュペーパーの賦香方法。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

この発明は密閉可能な容器内に不織布を入れ、

これに含浸された香料を揮散させ、ティッシュペーパーに香氣成分を徐々に吸着させるティッシュペーパーの賦香方法に関する。

【従来の技術】

ティッシュペーパーの賦香方法としては、容器にティッシュペーパーを収納する前に予めティッシュペーパーを賦香する方法と、容器内でティッシュペーパーを賦香する方法がある。

前者の方法として、例えば特開昭62-142530号公報ではティッシュペーパーにロールプレス等によって精油を浸透させてから乾燥したり、密室の下方に精油を配置し上方にティッシュペーパーを吊し一定期間密封して精油を浸透させる構造が開示されており、また実開昭62-59493号公報では香料タンクからスプレーノズルでメントールを配合した香料をティッシュペーパー原紙に含浸させる構造が開示されている。

次に後者の方法としては、例えば特公昭62-29396号公報には、内部に収納された紙を取

り出す際に、その紙が摩擦する容器の内壁面及び又は取出口に摩擦発香性のマイクロカプセル化香料を付着させる構造が開示されており、実開昭56-117897号公報にはティッシュペーパーの箱体内に、ゼラチン寒天等に混入してゲル状とした香料を、上部に放出孔を設けた耐水性箱体に収納して併置した構造が開示されている。

【発明が解決しようとする課題】

容器に収納する前に予めティッシュペーパー原紙を賦香する方法は、設備が大がかりとなると共に製品化までに時間がかかる欠点がある。

即ち、香料成分を噴霧して含浸させる場合には乾燥させる必要があり、また原紙を吊り下げて吸着させる場合には、それを保管する場所と一定期間の吸着期間が必要となる。

そこで、容器内でティッシュペーパーを賦香すれば上記欠点は解消するが、ティッシュペーパーを容器の壁面と摩擦して賦香する場合は、摩擦力に比例して賦香させるので、ティッシュペーパーの全部の面に均一に賦香することができないと共

にドライな状態で香料を吸着させれない欠点がある。

また、容器内に箱体を設けゲル状とした香料を内蔵する場合は箱体の放出孔から香料を流出させないように容器を所定姿勢に保持する必要がある、運搬や保管時の取扱に問題があると共に、容器の構造が複雑化し収納されたティッシュペーパーの量に比して大型化が避けられない欠点がある。

そこで、ティッシュペーパーに香料成分を含浸させたものでなく、ドライで安全性の高い香気成分を簡単な構造で吸着させることができるティッシュペーパーの賦香方法を創製することが求められていた。

この発明の問題点は、容器内でティッシュペーパーを賦香するに際して、容器を開封してティッシュペーパーを使用する前に既にティッシュペーパーに香気成分を吸着させておくティッシュペーパーの賦香方法を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、鋭意研究を行い、まず安全性、

-3-

特に鼻の粘膜に刺激の少ない香料成分であって、更に、鼻などを爽やかと感じさせる森林浴、ミントをイメージする香料成分として、ユーカリプタスオイル、ラバンジンオイル、メントール、およびペパーミントオイルの組合せを必須成分とすることを見出した。

この発明に使用する香料には上記成分の他に、例えばローズマリーオイル、クローブオイル等を適宜に含有してもよい。

次に、本発明者らは、上記香料成分からなる調合香料をほど良く含浸、吸着し、香気を移行するのに適しており、香料が吸着材に十分含浸されて、含浸されなかった香料がティッシュペーパーに直接付着することのない材質を求めた。

ここで香料を含浸する素材としては、従来、ケイ酸カルシウムやシリカ等の無機含浸体が用いられているが、ドライティッシュ容器に用いる場合は適当な大きなサイズの袋に入れる等しないと壊れた微細粒子がティッシュペーパーに付着し、これによって鼻粘膜を刺激する虞れがある。

-4-

また、芳香を持ったフィルムとしてはエチレンビニルポリマー等が用いられるが、含浸させるのにまずポリマー粒子をチップやペレット状とし、加温等を行って含浸しやすくすることが必要であるし、含浸させるのに時間がかかる。

更に、成形するにはフィルム状とした後に切断することが必要であるのでフィルム状に加熱するため熱安定性の高い香料が必要となり、本発明に用いる香料の吸着材としては適さない。

更に、製造工程において賦香工程を単純化するためには、一定量の香料を滴加して含浸させるのが最も簡便である。

そのためには、すばやく含浸し香料溶液の流れを作らず、香料の保持能力が大きいことが必要である。

そこで、一定サイズの含浸素材としてポリエステル、ビスコースバルブ、羊毛、ポリプロピレン等について含浸テストを行い、バルブ材を選択し、その内でも種々形態のものがあるが最も好ましいものは不織布であることを見出した。

-5-

-494-

-6-

そして、これらをもとに本発明を完成したものであり、本発明では、ティッシュペーパーを取出し可能に収納する密閉容器内に不織布を内蔵し、該不織布にユーカリプタス オイル、ラバンジン オイル、メントールおよびペパーミント オイルを主成分とし好ましくはこれら4成分が香料中90%以上である香料を含浸させてティッシュペーパーと共に密閉し、上記不織布から揮散した香氣成分を上記ティッシュペーパーに吸着させる、という技術的手段を講じている。

【作用】

密閉可能な容器内に内蔵された不織布には香料が含まれているので密閉容器内に揮散され、容器内に香氣成分で飽和させる。

この香氣成分は、上記容器内に不織布と共に収納されているティッシュペーパーに徐々に吸着される。

これによって上記容器内に不織布を内蔵しておくだけでティッシュペーパーにドライに香氣成分を吸着させることができ、ティッシュペーパーの

使用に際して鼻の粘膜への刺激が少ないと共に鼻などを爽やかと感じさせることができる。

【実施例】

以下に、ティッシュペーパーの賦香方法の好適実施例について説明をするが、本発明はこの実施例によって限定されるものではない。

【実施例1】

第1図から第3図に示すティッシュ容器1は、合成樹脂材を用いた射出成型で成形された容器（旭合成樹脂工業株式会社製）からなっており、本実施例では $53 \times 23 \times 102$ (mm)の断面楕円形の筒状体からなっている。

このティッシュ容器1は容器本体2の上にキャップ3が着脱可能に一体に連結されており、該キャップ3には上面に取出口4が穿設され、これを閉止する着脱可能な蓋5が連設されている。

ここで取出口4は、第3図に明瞭なように中央の円孔4Aから放射状に4本のスリット4Bが延出する構成からなっている。

このスリット4Bが穿設される壁面は外方に向

-7-

かって漸次肉厚となる断面テーパー状に形成しており、適宜にスリットの長さを調整できる。

このティッシュ容器1の底面に、第4図に示すバルブ製の不織布6を載置する。

この不織布（本州製紙株式会社製）6は、上記容器1の底面に沿って隙間なく敷設できるよう $15 \times 30 \times 2$ (mm)の長方形に形成されている。

そして上記不織布6には、ユーカリプタス オイル、ラバンジン オイル、メントールおよびペパーミント オイルを必須成分として、これにローズマリー オイル、クローブ オイルを混合した（調合）香料を容器本体2の上部開口から0.5ml滴加して含浸させる。

ここで香料の含浸量は、吸着させるティッシュペーパーの量との関係で最適な量が決定されるが、ティッシュペーパー8～10枚に用いる場合には、上記寸法の不織布に対して0.1ml～0.7mlの範囲、より好ましくは0.3ml～0.5mlの範囲とする。

ここで香料は0.8ml以上を滴加すると不織布

-8-

が湿ってしまいティッシュペーパーを濡らす虞れがあり、また0.1ml未満では鼻を爽快にする効果がなくなる。

なお、不織布6は容器の底面に載置しておき、香料を滴加するものであれば製作工程が簡易化することができるが、本発明では予め香料を不織布6に含浸させておいて容器内に内蔵させるものでもよい。

また不織布6の位置は容器1の底面上に限定されず、容器内に香氣成分を揮散できればどの個所に配置してもよい。

次いで、第5図に例示するようにソフロン系乾式不織布のティッシュペーパー7（株式会社トヨ製で1枚が 140×200 (mm)のもの）をティッシュ容器1内に8～10枚収納し、該ティッシュ容器1の上部に設けられた蓋5で取出口4を閉じて密閉保存する。

このティッシュ容器1に収納されたティッシュペーパー7は、商品として製造されてから小売店等で販売されるまで最低約1ヶ月は密閉状態にあ

-9-

-10-

る。

そして、前記香料の揮散速度は約20分から30分であり、揮散した香氣成分は上記密閉期間中充分に安定した状態にあり、容器1内で飽和し、全体に均一に広がって上記ティッシュペーパーに徐々に吸着されていく。

従って、ティッシュペーパー7の使用時には、容器1の取出口4が開口されるが、それまでの間に香氣成分はティッシュペーパーにドライにまんべんなく吸着されている。

【参考例1】

優れた含浸性を有する素材の選択

各種素材の含浸用マットを15×35×2(mm)に切断し、各々マット1枚当り0.4mlの香料フレグランスSH-8877, 9645, 9788, 8789、レモンSH-6636をマットに滴加してその状態を調べた。

その結果を第1表に示す。

第1表

品名	材質名	材料g数	0.4付 香時の 広がり	最大 含浸 倍数
LB-21	*リステル	0.38	φ1.5cm	貫通
LB125W	*リステル			
	ビスコス	0.18	1.5	貫通
R28W	羊毛(100%)	0.81	1.2	4.5
フジの 3000	*リフ*ロビ*レン	0.58	2.0	3.5
PA-4021	*リフ*ロビ*レン	0.36	2.5	貫通
濾紙 No.2	ハ*ル*フ*	0.32	5×5	1.9
濾紙(厚い)	ハ*ル*フ*	0.93	3×5	3.1
不織布	ハ*ル*フ*	0.21	5×5	4.9
蚊取りマット	ハ*ル*フ*	0.86	3×2	2.5
フローライト(P)	クイ酸カルシウム			3.4
フローライト(10)	クイ酸カルシウム			1.8
シリカゲル(B)	シリカ			0.7

第1表から香料の広がりとは含浸倍数よりバルブ製の不織布が最良であることがわかる。

-11-

【参考例2】

香料成分の選択

調香師5名の専門パネラーを使って、鼻の通りがよい、森林浴イメージ等でティッシュペーパーとして最良の組合せをチェックしたところ、標部としてレモンオイルとの比較でユーカリプタスオイル、ラバンジンオイル、メントールおよびペパーミントオイルを90重量%以上としたものが鼻の通りが良くなったことを全てのパネラーが認めた。

【発明の効果】

本発明では、容器内でティッシュペーパーを賦香する方法でありながら、ティッシュペーパーの使用時には既に香氣成分がティッシュペーパーに均一に吸着されているので、使用中に賦香する方法に比べて簡単な構成となり信頼性に優れる。

また、ユーカリプタスオイル、ラバンジンオイル、メントールおよびペパーミントオイルを主成分とする香氣成分が吸着したティッシュペーパーを使用することにより、鼻の通りを良くし、

-12-

快適にすることができ極めて有益である。

更に、賦香のために設備を増大したり、製造時間を延長する必要がなく大幅なコストダウンを図ることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、この発明のティッシュペーパーの賦香方法の実施例に用いるティッシュ容器の断面図、第2図は同正面図、第3図は同平面図、第4図は不織布の一例を示す斜視図、第5図は積層ティッシュペーパーの一例を示す斜視図である。

- 1・・・ティッシュ容器
- 4・・・取出口
- 5・・・蓋
- 6・・・不織布
- 7・・・ティッシュペーパー

出願人 高砂香料工業株式会社

出願人 株式会社 ロッテ

代理人 弁理士 西 良 久

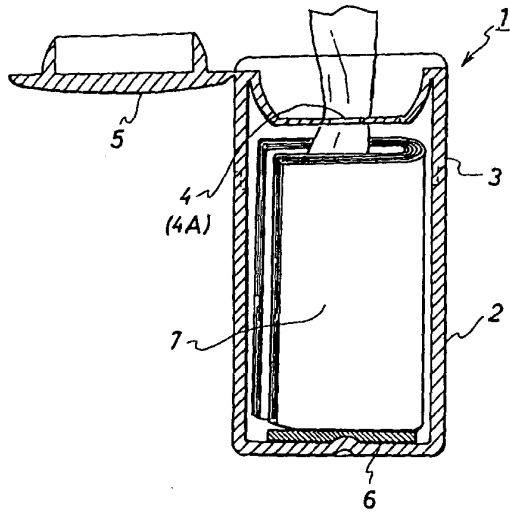


-13-

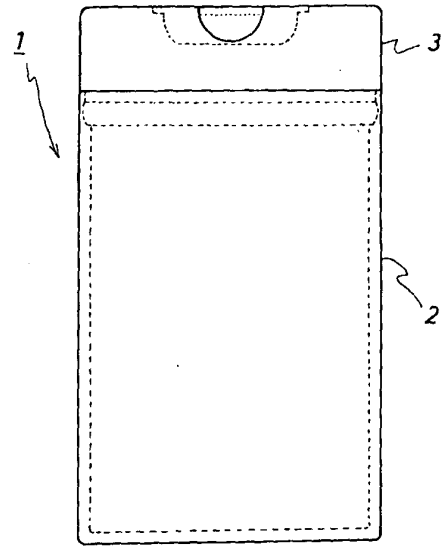
-496-

-14-

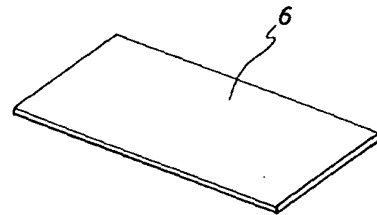
第 1 図



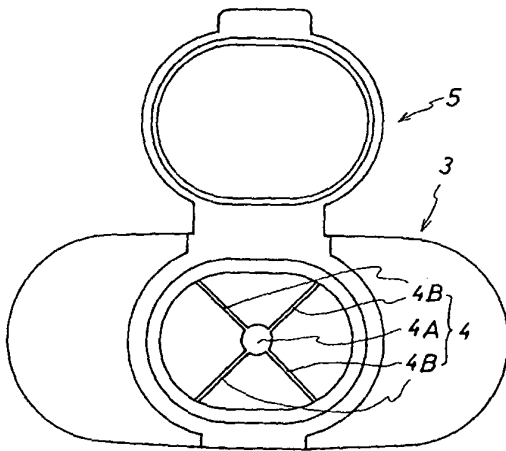
第 2 図



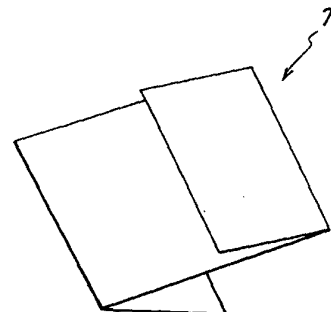
第 4 図



第 3 図



第 5 図





European Patent
Office

EUROPEAN SEARCH REPORT

Application Number
EP 99 10 3046

DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT			
Category	Citation of document with indication, where appropriate, of relevant passages	Relevant to claim	CLASSIFICATION OF THE APPLICATION (Int.Cl.6)
X	DE 39 01 341 A (DETIA FREYBERG) 19 July 1990 *see the whole document*	1-3	A01N65/00
X	CHEMICAL ABSTRACTS, vol. 119, no. 9, 30 August 1993 Columbus, Ohio, US; abstract no. 88945, OKANO, TAKAYOSHI: "Nontoxic insect repellent compositions for protecting clothes from damage by moth and other insects" XP002101875 * abstract * & JP 05 097618 A (OSAKA SEIYAKU KK, JAPAN)	1-3	
X	DATABASE CROPU PLARRE ET AL.: "Effects of oil of cloves and citrionellol, two commercially available repellents, against the webbing clothes moth <i>Tineola bisselliella</i> Hum." XP002101876 * abstract * & ANZ. SCHAEDELINGSKD. PLANZ. UMWELTSCHUTZ , vol. 70, no. 3, 1997, pages 45-50,	1-3	
			TECHNICAL FIELDS SEARCHED (Int.Cl.6)
			A01N
The present search report has been drawn up for all claims			
Place of search THE HAGUE		Date of completion of the search 4 May 1999	Examiner Fort, M
CATEGORY OF CITED DOCUMENTS X : particularly relevant if taken alone Y : particularly relevant if combined with another document of the same category A : technological background O : non-written disclosure P : intermediate document T : theory or principle underlying the invention E : earlier patent document, but published on, or after the filing date D : document cited in the application L : document cited for other reasons & : member of the same patent family, corresponding document			

EPO FORM 1503 03 82 (P04C01)

**ANNEX TO THE EUROPEAN SEARCH REPORT
ON EUROPEAN PATENT APPLICATION NO.**

EP 99 10 3046

This annex lists the patent family members relating to the patent documents cited in the above-mentioned European search report.
The members are as contained in the European Patent Office EDP file on
The European Patent Office is in no way liable for these particulars which are merely given for the purpose of information.

04-05-1999

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date
DE 3901341 A	19-07-1990	NONE	

EPO FORM P4459

For more details about this annex : see Official Journal of the European Patent Office, No. 12/82